

第96回 簿記実務検定第 1 級試験問題

原価計算

(制限時間 1 時間 30 分)

1 下記の取引の仕訳を示しなさい。ただし、勘定科目は、次のなかからもっとも適当なものを使用すること。

当 座 預 金 製 品 / 級 製 品 2 級 製 品

A 組 製 品 B 組 製 品 売 上 原 価 保 險 料

従 業 員 賞 与 手 当 製 造 品 (仕 掛 品) (A 組 製 造 品) (B 組 製 造 品)

組 間 接 費 材 料 消 費 価 格 差 異 本 社 工 場

- a. 組別総合原価計算を採用している山梨製作所は、組間接費 ¥1,320,000 を機械運転時間を基準に A 組と B 組に配賦した。なお、当月の機械運転時間は A 組が 2,050 時間 B 組が 1,250 時間であった。
- b. 単純総合原価計算を採用している岐阜製作所は、月末に工場の従業員に対する賞与の月割額を消費高として計上した。なお、半年分の賞与の支払予定額は ¥1,602,000 である。
- c. 個別原価計算を採用している静岡工業株式会社では、原価計算係が作成した次の完成品原価月報にもとづいて完成品原価を計上した。

完成品原価月報					No. 014
令和〇年 6 月分					
製造指図書番号	完成日	品名および規格	数量	単価	金額
#301	6月10日	GA-4	250	18,000	4,500,000
#302	6月25日	KU-6	76	25,000	1,900,000
合計					6,400,000
備 考				会計係	原価計算係
				三島	伊東

- d. 長野工業株式会社は、会計期末にあたり、材料消費価格差異勘定の残高を売上原価勘定に振り替えた。なお、材料消費価格差異勘定の前月繰越高は ¥6,000 (貸方) であり、当月の素材の実際消費高は予定消費高より ¥8,000 多く、この額は材料消費価格差異勘定に振り替えられている。
- e. 等級別総合原価計算を採用している愛知製作所において、1 級製品 1,500 個と 2 級製品 2,000 個が完成した。ただし、この完成品の総合原価は ¥2,550,000 であり、等価係数は製品 1 個あたりの重量を基準としている。
- 1 級製品 400g 2 級製品 200g
- f. 工場会計が独立している福岡工業株式会社の本社は、建物に対する保険料 ¥960,000 を小切手を振り出して支払った。ただし、保険料のうち工場負担分は ¥672,000 である。(本社の仕訳)

2

佐賀化学株式会社は工程別総合原価計算を採用し、A製品を製造している。下記の資料によって、

- (1) 工程別総合原価計算表を完成しなさい。
 - (2) 第2工程の月末仕掛品原価に含まれる前工程費を答えなさい。
 - (3) 第1工程半製品勘定を完成しなさい。
- ただし、
- i 第1工程の完成品原価は、すべて第1工程半製品勘定に振り替えている。
 - ii 第1工程の完成品のうち一部を外部に販売している。
 - iii 素材は製造着手のときにすべて投入され、第1工程の完成品は第2工程の始点で投入されるものとする。
 - iv 加工費は第1工程・第2工程ともに製造の進行に応じて消費されるものとする。
 - v 月末仕掛品原価の計算は平均法による。
 - vi 第1工程半製品の前月繰越高は次のとおりであった。なお、第1工程半製品は総平均法により半製品単価を計算し、第2工程と売上原価に計上する。

前月繰越 1,600個 @ ¥2,540 ¥4,064,000

資 料

a. 当月製造費用

① 工程個別費および補助部門個別費

	第1工程	第2工程	補助部門
素 材 費	¥2,928,000	—	—
労 務 費	¥3,840,000	¥2,560,000	¥253,000
経 費	¥312,000	¥208,000	¥71,000

② 部門共通費配賦額

第1工程 ¥432,000 第2工程 ¥234,000 補助部門 ¥36,000

③ 補助部門費配賦割合

第1工程 60% 第2工程 40%

b. 生産データ

	第1工程	第2工程
月初仕掛品	600個 (加工進捗度40%)	400個 (加工進捗度55%)
当 月 投 入	3,000個	2,800個
合 計	3,600個	3,200個
月末仕掛品	400個 (加工進捗度60%)	300個 (加工進捗度60%)
完 成 品	3,200個	2,900個

c. 月初仕掛品原価

第1工程 ¥960,000 (素材費 ¥600,000 加工費 ¥360,000)
 第2工程 ¥1,242,600 (前工程費 ¥1,016,000 加工費 ¥226,600)

d. 当月中に第1工程半製品2,800個を次工程へ引き渡し、500個を外部に販売した。

3

次の各問いに答えなさい。

- (1) 長崎製作所の下記の資料により、製造原価報告書に記載する次の金額を求めなさい。

a. 当期材料費 b. 当期経費 c. 期末仕掛品棚卸高

資 料

① 素 材	期首棚卸高	¥418,000	当期仕入高	¥1,893,000	期末棚卸高	¥375,000
② 工場消耗品	期首棚卸高	¥103,000	当期仕入高	¥410,000	期末棚卸高	¥97,000
③ 賃 金	前期未払高	¥284,000	当期支払高	¥2,423,000	当期未払高	¥218,000
④ 給 料	当期消費高	¥1,072,000				
⑤ 健康保険料	当期消費高	¥175,000				
⑥ 外注加工賃	前期前払高	¥75,000	当期支払高	¥391,000	当期前払高	¥182,000
⑦ 電 力 料	当期支払高	¥159,000	当期測定高	¥170,000		
⑧ 減価償却費	当期消費高	¥156,000				
⑨ 仕 掛 品	期首棚卸高	¥142,000	期末棚卸高	¥		
⑩ 当期製品製造原価		¥6,513,000				

- (2) 部門別個別原価計算を採用している熊本製作所の当月における下記の資料から、次の金額を求めなさい。
 なお、解答欄の（ ）のなかには借方差異の場合は借方、貸方差異の場合は貸方を○で囲むこと。

a. 補助部門費配賦後の第1製造部門費合計 b. 第2製造部門費配賦差異

ただし、i 製造間接費は部門別計算をおこない、予定配賦額は次のとおりである。

第1製造部門費 ￥2,193,000 第2製造部門費 ￥2,372,000

ii 補助部門費は直接配賦法によって各部門に配賦している。

資 料

- ① 製造間接費の当月配分額 第1製造部門費 ￥1,742,000 第2製造部門費 ￥2,016,000
 動力部門費 ￥550,000 工場事務部門費 ￥250,000

- ② 補助部門費の配賦基準

	配賦基準	第1製造部門費	第2製造部門費
動力部門費	kW数×運転時間数	50kW×240時間	40kW×200時間
工場事務部門費	従業員数	40人	60人

- ③ 製造部門費合計 第1製造部門費 ￥ 第2製造部門費 ￥2,386,000

- (3) 大分製作所では、直接原価計算をおこない利益計画をたてている。当月における下記の資料から、次の金額を求めなさい。

- a. 販売数量が1,000個のときの営業利益
 b. 営業利益 ￥1,200,000 を達成するための売上高
 c. 固定費を ￥330,000 削減できたときの損益分岐点売上高

資 料

- ① 販売単価 ￥6,000 ④ 固定製造間接費 ￥1,170,000
 ② 変動製造費（製品/個あたり） ￥2,000 ⑤ 固定販売費及び一般管理費 ￥1,680,000
 ③ 変動販売費（製品/個あたり） ￥400

- (4) 標準原価計算を採用している宮崎製作所の当月における下記の資料から、次の金額を求めなさい。

a. 完成品の標準原価 b. 作業時間差異

ただし、i 直接材料は製造着手のときにすべて投入されるものとする。

ii 解答欄の（ ）のなかには不利差異の場合は不利、有利差異の場合は有利を○で囲むこと。

資 料

- ① 標準原価カード（一部）

A製品 標準原価カード			
	標準消費数量	標準単価	金額
直接材料費	4kg	￥300	￥1,200
	標準直接作業時間	標準賃率	
直接労務費	2時間	￥1,400	￥2,800
製品/個あたりの標準原価			￥5,200

- ② 生産データ

月初仕掛品	600個（加工進捗度40%）
当月投入	1,400個
合計	2,000個
月末仕掛品	800個（加工進捗度60%）
完成品	1,200個

- ③ 実際直接労務費

実際直接作業時間	2,850時間
実際賃率	￥1,420

- (5) 次の文の にあてはまるもっとも適当な語を、下記の語群のなかから選び、その番号を記入しなさい。

原価計算の主たる目的は、企業の利害関係者に対して、財政状態を ア に表示するために必要な真実の原価を集計することと、原価資料を提供することである。原価資料は販売価格の計算や予算管理などに必要なほか、製造活動のむだをはぶき、原価を引き下げようようにすることである イ にも必要である。

1. 利益計画 2. 原価管理 3. 製造原価報告書 4. 財務諸表

4

個別原価計算を採用している鹿児島製作所の下記の取引によって、次の各問いに答えなさい。

- (1) 6月30日①の取引の仕訳を示しなさい。
- (2) 製造勘定（仕掛品勘定）・製造間接費勘定に必要な記入をおこない、締め切りなさい。なお、勘定記入は日付・相手科目・金額を示すこと。
- (3) A製品（製造指図書#1）の原価計算表を作成しなさい。

ただし、i 前月繰越高は、次のとおりである。

素 材	800個 @ ¥1,250	¥1,000,000
工場消耗品	720〃 〃 〃 50	¥ 36,000
仕 掛 品（製造指図書#1）	¥3,694,000（原価計算表に記入済み）	
賃 金（未払高）	¥1,320,000	

ii 素材の消費高の計算は先入先出法により、工場消耗品の消費数量の計算は棚卸計算法によっている。

iii 賃金の消費高の計算には、作業時間／時間につき ¥1,400 の予定賃率を用いている。

iv 製造間接費は直接作業時間を配賦基準として予定配賦している。

年間製造間接費予定額（予算額）	¥34,320,000
年間予定直接作業時間（基準操業度）	78,000時間

- (4) 当月の実際平均賃率を求めなさい。
- (5) 当月の賃率差異の金額を求めなさい。なお、解答欄の（ ）のなかは借方差異の場合は借方、貸方差異の場合は貸方を○で囲むこと。
- (6) 製造間接費配賦差異における次の資料から、操業度差異の金額を求めなさい。なお、解答欄の（ ）のなかは借方差異の場合は借方、貸方差異の場合は貸方を○で囲むこと。

資 料

- a. 製造間接費については公式法変動予算により予算を設定して予定配賦をおこなっている。
- b. 月間の基準操業度（直接作業時間）は6,500時間である。
- c. 月間の製造間接費予算は、変動費率 ¥230 固定費予算額 ¥1,365,000 である。
- d. 当月の実際直接作業時間は6,600時間であった。

取 引

6月 8日 素材および工場消耗品を次のとおり買い入れ、代金は掛けとした。

素 材	1,500個 @ ¥1,300	¥1,950,000
工場消耗品	2,700〃 〃 〃 50	¥ 135,000

12日 B製品（製造指図書#2）の注文を受け、素材1,500個を消費して製造を開始した。

25日 賃金を次のとおり小切手を振り出して支払った。

賃 金 総 額	¥10,398,000
うち、控除額 所 得 税	¥632,000
健康保険料	¥432,000

30日 ① 工場消耗品の月末棚卸数量は540個であった。よって、消費高を計上した。（間接材料）

② 当月の賃金予定消費高を次の作業時間によって計上した。ただし、消費賃金勘定を設けている。

製造指図書#1	3,600時間	製造指図書#2	3,000時間
間接作業	500時間		

③ 直接作業時間によって、製造間接費を予定配賦した。

④ 健康保険料の事業主負担分 ¥432,000 を計上した。

⑤ 当月の直接経費消費高を計上した。

外注加工賃 ¥380,000（製造指図書#1）

⑥ 当月の間接経費消費高を計上した。

電 力 料	¥ 479,000	保 險 料	¥83,000
減価償却費	1,082,000	雑 費	71,000

⑦ 当月の賃金実際消費高 ¥10,153,000 を計上した。よって、賃金の予定消費高と実際消費高との差額を、賃率差異勘定に振り替えた。

⑧ A製品（製造指図書#1）600個が完成した。

⑨ 製造間接費の予定配賦額と実際配賦額との差額を、製造間接費配賦差異勘定に振り替えた。